

4
round

F-NIPPON

RACING PRESS

apan

2012 JAPANESE CHAMPIONSHIP
Formula NIPPON Round4 FUJI



A photograph of a Formula NIPPON race track. In the foreground, a blue and white open-wheel race car is positioned on the track. The car features 'TOYOTA' and 'DENZA' branding. In the background, another race car in orange and white is visible, along with spectators and buildings with 'ENSO' and 'TOYOTA' signs.

Formula
NIPPON
2012

Round 4
FUJI

Formula NIPPON FUJI 2012
7/14-15

Editor
吉川絹恵

Photo & Text
中村佳史

真夏の戦い

真夏のサーキットで展開される全日本選手権フォーミュラ・ニッポンは第4戦を迎え高速決戦と言われる富士スピードウェイで開催された。全7戦で行われるこのシリーズは今回が折り返し点となるだけに極めて重要なレース。すでに3戦が終了、開幕戦の鈴鹿は中嶋一貴、第2戦のもてぎはアンドレ・ロッターが優勝。さらに第3戦のオートボリスでは塚越広大が初優勝を挙げまさに混戦状態。それだけに第4戦はドライバーにとっては熱き戦いの場となるであろう。



アンドレ・ロツテラーが予選9番手から大逆転

今季2勝目はチームメイトと大バトル

中嶋一貴は2位でポイントランキングはトップに



予選はノックアウト方式で行われた。空模様が怪しい中、小雨もバラつきQ3で前半区間がドライのドライのうちに駆け抜けた中嶋一貴がベストをたたき出しポールポジションを獲得。以下大嶋和也、塚越広大、国本雄資と続いた。富士には強いロツテラーはQ3に進めず9番手となった。不安定な天候となった決勝日は、決勝中も天候がはっきりせず折降る雨にチームもタイヤ選択に翻弄される。終盤乾き始めたコンディションでロツテラー怒涛の追い上げを見せ、再び雨がパラつきはじめ、ロツテラーは大嶋をパスして2位に浮上、残り3周で中嶋一貴との同チームでサイドバイサイドの争いとなったがロツテラーが見事に中嶋をパスして逃げ切り今季2勝目を大激戦で飾った。



今季から他種スポーツとの交流としてサッカーの川崎フロンターレチームとの友好関係を持ち6月30日には試合前の等々力陸上競技場に中嶋一貴、塚越広大選手がフォーミュラカーマシンを持ち込みデモランを行った。チームサポートが水色のチェッカーフラッグを振り歓迎。そのフラッグが今回決勝でも使用された。(通常の白黒チェッカーフラッグとの併用。これはチェッカーフラッグは白黒と国際競技規則で定められているため水色だけでは無効のため。) また表彰台に上がったドライバーも水色チェッカーフラッグを使用した。



予選は2位をゲットした大嶋和也は決勝でもトップを走行。
後半中嶋、ロッテラーにはパスはされたが本人ベストの3位の表彰台をゲットした。



予選から好調を見せた中嶋一貴は決勝はチームメイトに破れ
2位フィニッシュとなったがポイント争いではトップに浮上。

【決勝結果】

優勝	No1	PETRONAS TEAM TOM'S	アンドレ・ロッテラー
2位	No2	PETRONAS TEAM TOM'S	中嶋一貴
3位	No7	Team LeMans	大嶋和也
4位	No8	TEAM KYUNUS SUNOCO	ロイック・デュバル
5位	No20	TEAM IMPUL	松田次生
6位	No19	TEAM IMPUL	ジョアオ・パオロ・デ・オリベイラ